閲覧用

佐竹史料館改築基本計画案

（骨子）

令和４年１月

秋田市

佐竹史料館改築基本計画案（骨子）

第１　基本理念　・・・・・・・・・・・・・・・1

１　目指す施設像
２　施設整備の考え方

第２　千秋公園の歴史ゾーンにおける施設の目的、構成等・・・・・・・・・・・・・1

１　目的
２　施設構成
３　各施設の名称と機能（図１　千秋公園・芸術文化ゾーン全体図）

第３　佐竹史料館改築計画　・・・・・・・・・・・・・・2

１　施設概要
(1) 計画地の概要
(2) 計画施設の構造規模
２　施設配置計画（図２　イメージ図、図３　施設配置・間取図）
(1) 施設本体
(2) 駐車場
(3) アクセス
３　施設機能（図３　施設配置・間取図）　・・・・・・・・・・・・・・3
(1) 機能別概算面積
４　展示計画　・・・・・・・・・・・・・・4
(1) 常設展示
(2) 企画展示
(3) その他の取組等
５　事業スケジュール　・・・・・・・・・・・・・・5

参考資料
図１　千秋公園・芸術文化ゾーン全体図　・・・・・・・・・・・・・・6
図２　イメージ図　・・・・・・・・・・・・・・7
図３　施設配置・間取図　・・・・・・・・・・・・・・8
外観イメージ図　・・・・・・・・・・・・・・9
展示室イメージ図　・・・・・・・・・・・・・・10

第１　基本理念

１　目指す施設像

・秋田藩の歴史を詳しく、楽しく伝える施設
・市民の郷土学習を支援するとともに人材育成に寄与する施設
・貴重な歴史遺産を後世に継承しながら、地域活性化に寄与する施設
・誰もが気軽に訪れ楽しむことができる施設

２　施設整備の考え方

佐竹史料館を核として、久保田城御隅櫓、御物頭御番所を千秋公園の歴史ゾーンの拠点となる施設とし、久保田城跡である千秋公園全体を見据えた博物館機能の強化、観光振興、にぎわいづくりを推進する。

第２　千秋公園の歴史ゾーンにおける施設の目的、構成等

１　目的

本市における最大の歴史的・文化的遺産と言うべき久保田城跡・千秋公園を関連する歴史資料とともに一体的に保存・継承していくことで、歴史観光資源としての千秋公園の魅力を高め、観光振興・にぎわいづくりに資する。

２　施設構成

(1) 改築する佐竹史料館とともに、久保田城御隅櫓、御物頭御番所を千秋公園の歴史ゾーンを構成する拠点となる施設と位置付ける。
(2) ３施設の組織的一体化により、歴史情報の発信を強化し、千秋公園における歴史的魅力の向上を図る。
(3) ３施設を拠点にＡＲ・ＶＲにより、城跡としての景観を復元する。

３　各施設の名称と機能（図１　千秋公園・芸術文化ゾーン全体図）

名称	機能
佐竹史料館	・佐竹氏、秋田藩関係の資料の保存、展示 ・郷土学習の支援、調査研究
久保田城御隅櫓	・映像、パネル等による秋田市の歴史の紹介 ・展望室やＡＲ・ＶＲによる千秋公園の観光スポット
御物頭御番所	・生け花展示やミニ芸能公演などの会場 ・ＡＲ・ＶＲで昔の城内の映像を楽しむ拠点

第３　佐竹史料館改築計画

１　施設概要

(1) 計画地の概要

・建設予定地　　秋田市千秋公園１番４号

・計画敷地　　7,000㎡（建物本体の建築予定地は3,400㎡）

・都市計画の指定　　総合公園

・用途地域の指定　　第一種低層住宅専用地域

(2) 計画施設の構造規模

・延床面積　2,200㎡（１階：1,495㎡　２階：705㎡）

・構造　鉄筋コンクリート造

２　施設配置計画（図２　イメージ図、図３　施設配置・間取図）

(1) 施設本体

項目	内容
安全の確保と周辺環境への配慮	・土砂災害対策、住宅への圧迫感の低減のため、敷地西端から十分な間隔をとり、西側を搬入車両、高齢者・身障者用車両など車の動線とする。
文化施設のネットワーク化につながる結節点	・施設の正面、徒歩来館者の動線を東側とし、通路となる大型の庇を設置するとともに、大手門通りの堀脇の小道を東から城跡の趣を活かしたアプローチとして整備することで大手門通り→二の丸→中央図書館明徳館→あきた芸術劇場→文化創造館→明徳館小路を円状につなげ文化施設のネットワーク化を図り、回遊性を創出する。 ・屋上に展望テラスを設け、眺望によって千秋公園とまちなかをつなげる。

(2) 駐車場

敷地内駐車場	・敷地西側に、搬入車両停車場、タクシー待避所、マイクロバス待避所、高齢者・身障者用駐車場（４台）を整備する。
近隣駐車場	・一般車両は、松下前駐車場と現児童遊園地に整備予定の駐車場の活用を促す。

(3) アクセス

・従来の中土橋・大坂ルート、黒門側ルートに加え、大手門通りから黒門の堀脇を通る小道をアクセスルートとして整備する。

※坂道の距離は、大坂約130ｍに対し、約50ｍとなる。

3　施設機能（図３　施設配置・間取図）

(1) 機能別概算面積

階数	名称	概算面積(㎡)	内容
１階	ショップ	95	ミュージアムショップ、軽飲食提供
	収蔵庫	250	現状の飽和状態解消、増加・借用資料対応
	常設展示室	395	所蔵資料やジオラマ等を活用した常設展示
	企画展示室	225	借用資料の活用も含めた企画展示
	ホール	485	休憩スペース、ギャラリーウォール
	共用スペース	45	階段、トイレ等
	１階合計	1,495	
２階	資料室	115	保管、閲覧、古文書解読等の調査・研究
	事務室	115	管理運営等事務
	講堂	100	講堂としての用途のほか多目的に活用可
	機械室	280	冷温水発生器、ガス消火設備関係等
	共用スペース	95	階段、トイレ等
	２階合計	705	
建物合計		2,200	

4　展示計画

(1) 常設展示

ア　展示の考え方

・佐竹氏の歴史の全体像を紹介することを目的に、全体の展示ストーリーに基づき、テーマを設定する。

・各テーマごとに、パネル、映像、ジオラマ等模型、実物資料等でユニットを作る。

・来館者を千秋公園をはじめとした史跡や文化財、文化施設に誘う展示とする。

イ　展示テーマ

№.	タイトル	内容
1	佐竹義宣の転封と築城・城下町建設	関ヶ原の合戦から秋田への国替えと新城・城下町の建設等
2	佐竹氏について	佐竹氏の起源や常陸時代の佐竹氏等
3	歴代藩主と主な出来事	12代の藩主と各時代の主な出来事を紹介
4	藩体制と家臣団	藩の制度や家臣団など政治史の視点で紹介
5	秋田藩の産業振興	新田開発、鉱山・林業経営、北前船、羽州街道などを紹介
6	佐竹氏ゆかりの文化と城下町の暮らし	城下町の構造、町人の生活、祭り、芸能や著名な文化人、芸術家等を紹介
7	幕末と明治維新	戊辰戦争から明治維新後の歴史を紹介
8	佐竹氏歴史めぐり	佐竹氏ゆかりの史跡・名所等を紹介

ウ　文化財の魅力を伝える工夫

①　展示替え

常設展示においても、実物展示は適宜、展示替えを行い、資料への負荷の軽減とリピーターの確保につなげる。

②　展示ケース

甲冑、刀剣などを全ての角度から鑑賞できるよう、独立した展示ケースを効果的に設置する。

③　映像、ジオラマの活用

映像	・市外、県外の佐竹氏ゆかりの史跡、文化財などを紹介する ・書状など古文書は、実物展示にあわせ、その文書の場面を再現する映像、イラストなどを作成し紹介する ・絵巻などから当時の景観を復元、紹介する
ジオラマ	・久保田城、城下町、街道等はジオラマにより立体的に復元、紹介する

(2) 企画展示

ア　展示室の考え方

様々な展示に対応することができる間仕切り、照明等を設定し、移動可能な展示ケースを導入する。

イ　展示テーマ

常設展示の８つのテーマをより掘り下げた企画展を開催するとともに、他施設からの資料借用を念頭に、「日本の歴史を俯瞰する」、「佐竹氏、秋田藩との関係が深い地域の歴史に焦点をあてる」、「新たな歴史研究の成果の紹介」などのテーマにより企画展を開催する。

(3) その他の取組等

ホール、講堂などの無料エリアを設定し、各種講座や情報発信を行うことにより、千秋公園来園者を館内に呼び込む。

このほか、館外において、幅広い年齢層の歴史愛好家や県内外の観光客の関心を高める体験型の講座やイベントを効果的に展開する。

5　事業スケジュール

令和３年度　　「改築基本計画策定」、地質調査、測量調査
令和４年度　　現施設の閉館、解体工事、発掘調査、基本・実施設計
令和５年度　　建設工事着手、模型等制作開始
令和６年度　　建設工事完了、展示工事完了、外構工事、枯らし期間、開館

図１　千秋公園・芸術文化ゾーン全体図

図２　イメージ図

二の丸広場
大坂を上がるアクセス
（坂道約130m）
従来からの黒門跡を
経由するアクセス
（坂道約８０ｍ）
大型の庇
黒門の堀
大手門通り
(現)佐竹史料館
(新)佐竹史料館
新たに追加する
(仮称)黒門堀脇の小道
（坂道約５０ｍ）

図３　施設配置・間取図

●延床面積　2,200㎡
・１階床面積　1,495㎡
・２階床面積　705㎡
：来館者の出入口
１階
２階
P
マイクロバス
タクシー
ショップ・
95㎡
WC
収蔵庫
190㎡
搬入
60㎡
受付
資料用
搬入口
ホール
485㎡
展示室２
（常設）
160㎡
展示室１
（常設）
235㎡
展示室３
（企画）
225㎡
屋外アプローチ（庇下）
外階段
A
B
資料室
115㎡
事務室
115㎡
屋上テラス
講 堂
100㎡
吹抜
機械室
280㎡
大型の庇
屋上テラス
事務室
収蔵庫
ホール
アプローチ

外観イメージ図

中土橋方面から千秋公園の二の丸広場へ向かう坂を上がると、特徴ある大型の庇が来館者を迎え入れます。施設に向かって左手には、強い日差しや、雨などを避けることができる広いアプローチがあり、右手には、ミュージアムショップがあるなど、歴史の探訪だけでなく自由な時間を過ごせる空間となります。

屋内のホールは、レプリカ資料の展示のほか、パネル等による他の文化施設の案内、ボランティアガイドの受付の場としての活用など、様々な情報発信コーナーや交流のスペースとなります。また、屋外のアプローチから、施設の奥に見える階段を上り屋上テラスに出ると、二の丸広場などを見渡せます。

展示室イメージ図

展示室内は、実物資料のほか、ジオラマによる当時の久保田城と城下町の再現や、デジタル技術を活用した映像・音声による資料などにより、楽しくわかりやすい展示とします。

様々な角度から甲冑や刀剣などを鑑賞することができる独立した展示ケースや、秋田の文化遺産の魅力を十分に感じられる照明設備などを整備します。